

時事新報

唯勇なきを惜むのみ

我輩は前稿の紙上に於て後進生が家を成すの機會は正に今日に在るの理由を陳して聊か其注意を促したり敢て問ふ世人は之を一讀して果して如何なる感奮を爲したるや茫然未たりと願ふざるもの共は其に請るに足らざる也或は之を讀みて多少の感奮を起し一時は奮發して實行の心を決するも少く時日を経過すれば其決心も次第に緩みて遂には全く忘却するに至るもの必ず多きものとならん即ち人間の弱點にして今の人情に免れ難き所されども既に述べたるが如く社會の大勢は次第に貧富懸隔の相を現はして貧者は益々貧に富者は益々富む其大勢は人力を以て如何とす可きものなければ若しも後進の人々が今日の機會に大に斷する所なきに於ては立身出世の望は到底東洋なく千悔萬恨及ぶ可らざるの時機遂からせしめて来るや疑ある可らず我輩は今より之を斷言して其言の必違はざるを信するものなり蓋し今の後進の人々と雖も銜々の心事を叩けば何れも奮發の必要あるを知らざるに非ざれば之を知りて之を行ふものは甚だ少く或は毎度心に掛けながらも兎角愈の如くおろそかとして實行の難きを自白するものもなきに非ざらん困窮の態を免れざるは世俗の常情に非ざらん相聞の學識にも乏しからずして目下切迫の場合に臨みながら人々に是れ式の勇あしとは嘆息の至に堪ざる所あり抑も人間の性質は至て脆弱の者にして外物に抵抗して之に勝は唯一片の勇氣あるのみ其れども勇に眞偽の二様あり眞勇とは學者の勇にして爲勇と血氣の勇あり學者の勇は智識の判斷より來り血氣の勇は一時の發作に出づるものなり迅雷風烈に色を變せず砲火劍戟に心を動かさずと雖も暗夜裏身を忍行し枯草の風に塵を見ても却て氣絶するものあり蓋し心に信する所なくして單に一時發作の勇に依賴するも其發作の時に當りては身外の萬物總て恐るゝに足らざるが如くされども一時の血氣既に收まるに至れば萬物亦皆恐る可らざるものなり即ち風塵鶴唳の聲に瀧れずして枯草の塵に絶倒するものあり所以に學者の勇は之に異なり一時の發作にあらざりて智識の判斷に出づるが故に勇も恐る可きものは熾介の微、厘毛の小も之を恐るゝものと雖も及如何なる變事災難と雖も毫も之を恐るゝものと即ち驚愕が傳染病を恐れずして却て之を惹起す可き誘因を恐るゝが如く其恐るゝも恐れざるも智識の判斷に由るものにして學者の勇の常に其眞を失はざる所以あり切今の後進少壯の人々を見るに多くは人間處世の實際を知らず未だ深からず殊に維新以來社會革命の時代を距るも遠からずして其革命混戦の際に政治社會もしくは商業社會の先驅が偉偉投機の名義を以て後進生の心を刺戟するものあるが故に世の經歷に乏し人々は立身出世の一心より時代の變化を問はずして只管先輩の故跡を追ひ當りの時代を再びせんとする情なきを得ず彼の小説に耽るものが知らず／＼自身の世界を忘れて小説中の人たらんことを欲するが如く少壯の人々には無理もなき事ながら如何せん斯る妄想を實にするは今の社會の許さざる所にして畢竟小説作者の妙筆に欺かれたるものと其愚を同するものと云はざるを得ず本來人間社會の現

集は數理と情感とに支配されるものもあれば社會の進歩するに隨ひ數理の勢は次第に増して情感の方は次第に減ずるものあり例へば戰爭の如きも往時にては兵士の勇気即ち士氣の振不振を以て勝敗を卜する唯一の目的を爲したれども今日は然らずして器械道具の整不整、兵卒軍艦の多少を以て之を判するが如く社會萬般の事すべて情感を去り數理に就くものにて即ち貧富懸隔の大勢も此有様を事實に現したるものに外ならざれば今や其衝に當る可き社會後進の人々は先づ此點に注意し漫然たる情感を一掃して滿身すべて數理を充すの心掛かる可らず若しも然らずして壯年血氣の勇に任じ功名富貴手に唾して取る可しとの妄想を抱き學中に進むるともあらんか血氣の未だ衰へざる其間は此種の高氣志氣に抑ひ可しが如くあれども當る可らざるは數理の勢にして他年一日形勢はれば勢格するに至れば英氣忽ち挫折して遂に永劫奈落の底に陥らざるを得ず即ち其弱點を以て眞勇に非ざれば左れば今日以後貧富懸隔の大勢次第に其勢を逞ふするは數に於て免れざる所されども今の日本社會は上下貴賤も若者賢渾の風の流れに殆んど返るを忘るゝの最中あるのみ幸なれば世の後進生たるものは此間に覺悟を定め大に奮發貯蓄を心掛けて細々注意するに於ては今の後進生に先づ一身の地位を成し職を轉じて福を爲すの望なきに非ざらん其大勢は前稿に述べたるが如くして數理に於て明ある所あれども世上に之を行ふの勇あるものなく或は一時の勇あるも之を永續するの眞勇あるものを見えず今に後進の人々は何れも相應の學問智識を有して事物の判斷はあり可き筈であるに實際には其判斷を實にせずして却て一時發作の勇氣に依賴するもの多きが如し我輩は其行はれざるを嘆せず唯世上に眞勇の人少きを嘆するものなり

雜報

○集合仕拂命令の範圍 仕拂命令官が相當の債主若くは其代理人に向て發する命令は一人宛に對するものを正則とし條給、請給、恩給、賞給、年金、請給及定期拂切經費の仕拂をなす時に支出科目の同一あるものは數人の債主に對し集合仕拂命令を發し得べき事は會計規則第三十三條に規定しある處あれども斯く集合仕拂命令の範圍を限りては不便少からざる趣にて大藏省にては目下右の範圍を取附かねどの評議中であるよしも此の集合仕拂命令の範圍擴張に就ては先年既に大藏省に向て請求せし省二三のあり位にして現に雜給中雇人給の如く給與一人宛にしては多分ならざれども之を受取る人數に至ると反對に多き場合あれども之には第三十三條を適用する事は能はざるが故に若し果して此範圍を無制限となし支出科目同一あるものには集合仕拂命令を發し得る様にせば至極便利あるが如くに開議れども能く實際に就て考ふれば無制限未だ俄に賛成を表し難き處ありと云ふ全體集合仕拂命令を發する時は各債主(受取人)の金額氏名表を作りて之を仕拂命令書に添付し且つ其中の金額を該表中記名の各人が受取る場合に該表からしめん爲めに仕拂命令官は「規定の領收照」を當人に渡さるべからず彼是以て個々に命令を發するも集合するも實地の手數に至るとは格別變りたる事あれば無制限となすも左迄の便益は之なから

んかあれども官吏の俸給に付き發したる集合仕拂命令の場合には數名の債主即ち受取人中より一名の撥代を擧ぐ撥代は其金額を受取り得る規定領收照を仕拂命令官より得て以て正金を請取り來りて各自の手數を置く事、官吏世界には現に行はれ居るといふ

○芳川宮中顧問官 一昨十七日日出發相州鎌倉地方へ旅行したり

○正倉院御物拜觀の許可 奈良の正倉院は來る八月一日より同月三十一日まで懸涼中なるを以て高等官、有爵者、有位華族、從六位勳六等以上及び博士、學士、歴史美術工學專門寫志者外國人の向には拜觀を差許す由にて奏任官は本屬長官、有爵有位者は爵位局長若くは地方長官、有動者博士學士及び專門家寫志者は地方長官若くは奈良縣知事雇外國人は所轄屬長官一般外國人は各公使を經由し又勅任官は直接に就れも宮内省内事課長へ宛て來る廿五日までに申請すべき等なり專門家寫志者等に拜觀を許して珍品奇器に其氣韻を養はしむるは世間に及ぼす利益甚小にあらざるべし當局者の注意此邊に達し乍ら新聞雜誌の記事に此許可を及ばざるは解し難しと云ふ

佛蘭西人

佛蘭西學生の生活は以上云ふ所の如し而して之が爲め其性質の上に如何なる影響を及ぼすかを考ふるに抑も彼等は學校内に於て如何なる事を爲すか又彼等の行爲を監督するものは何人あるか監獄然たる高き壁の中に閉ぢ込まれて此悔れべき學生等は只自ら同じ境遇

○開闢地紀念碑設立の計畫 慶應二年舊幕府の征討軍長州藩の四境を圍んで其命に復せしめんとするや兩軍相對峙するも數日、蓋し幕府の政略は開闢にあらざれば其命を強行せんとするもの、如く長州藩に於ても幕府の政略始終一に出で大軍國の四境にありて頻りに防備に忙しく國を擧げて軍備に従軍し乍ら速に雄略を決する能はざらん其間には士氣疲れ産業は中絶せば坐して滅亡するの外なく終には幕府の要求に應ずらざるも止むを得ざらん此終には幕府の要求に應ずらざるも止むを得ざらん

○大坂府の春期収入石數 大坂府下の農業年々盛況に赴くよしは毎度本紙上に記載する處あるが本年春期の收穫高は凡千五百石にして前年春期の收穫高に比較すれば四百六十五石を増せしよしあり

○佛蘭西人 佛蘭西學生の生活は以上云ふ所の如し而して之が爲め其性質の上に如何なる影響を及ぼすかを考ふるに抑も彼等は學校内に於て如何なる事を爲すか又彼等の行爲を監督するものは何人あるか監獄然たる高き壁の中に閉ぢ込まれて此悔れべき學生等は只自ら同じ境遇

○佛蘭西人 佛蘭西學生の生活は以上云ふ所の如し而して之が爲め其性質の上に如何なる影響を及ぼすかを考ふるに抑も彼等は學校内に於て如何なる事を爲すか又彼等の行爲を監督するものは何人あるか監獄然たる高き壁の中に閉ぢ込まれて此悔れべき學生等は只自ら同じ境遇

- 新聞 時事新報 第...
- 新聞 時事新報 第...
- 新聞 時事新報 第...
- 新聞 時事新報 第...

○新聞 時事新報 第...

○新聞 時事新報 第...

○新聞 時事新報 第...

○新聞 時事新報 第...